

令和3（2021）年2月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和3（2021）年2月3日（水曜日）
午前11時～12時17分
柏崎市役所多目的室

1 発表事項

(1) 新型コロナウイルスワクチン接種に全庁挙げて取り組みます

（主管：健康推進課）

柏崎市の取り組み状況は、国、県の指示に基づいて、昨年12月1日、福祉保健部に8名のプロジェクトチームを発足し、1月4日、国民健康保険診療所を除く福祉保健部98名の体制に切り替えました。そして1月18日、全庁協力体制を敷くことを決定しました。

私の感覚では、プロジェクトチームというよりもタスクフォースという感覚で、柏崎市民の皆さんにいち早く、そして安心していただけるようなワクチン接種を行うべく、取り組み始めているところです。

市民の皆さんからワクチン接種のお問い合わせなどもありますので、電話での対応や、ホームページ上にワクチン接種のページなどを作っています。

柏崎市の場合は、国の主導で医療従事者向けの先行接種が独立行政法人国立病院機構新潟病院から始まります。その後、他の医療従事者の皆さん、続いて65歳以上の高齢者、高齢者以外で基礎疾患をお持ちの方、そして高齢者施設の従業員の方などに順次実施していきます。

新潟病院は2月下旬からの見込みで、高齢者は4月以降という話も国からありました。それ以外の方々は、まだ詳細が出ていません。

国から支給される保冷ボックスや保冷庫の手配も連絡をいただいています。1回に供給されるワクチンの量が約千人分で、かつ10日以内に接種し切らなければならないという制約があるので、私共が有している公共施設を中心とした集団接種をベースに考えていきたいと思っています。

3月中旬以降に高齢者の方々に接種券を発送し、その後、順次他の市民の方々に発送します。希望制ですので、同封される案内に従って、希望者には接種を受けていただきます。

どの会場でどのように接種を行うのか、どのような体制を組むのか、医療関係者、市職員、業者などをお願いしながら詰めているところです。柏崎市の人口は約8万2千人で、高齢化率が34パーセントですので、65歳以上の方々だけで2万8千人が対象になります。接種は2回行う必要があるということですので、考えただけでも大変な作業です。

市民の皆さんには、報道やホームページ、電話での問い合わせなどを通して情報を得て、安心していただければと思います。非常に大きな課題ですが、ワクチン接種を乗り切らなければ新型コロナウイルス感染症の克服はあり得ないと思っていますので、全庁を挙げて取り組んでいきたいと考えています。

(2) 上下水道料金などの支払いをスマートフォンでデジタル化向けキャッシュレス決済スタート

(主管：経営企画課)

4月から、スマートフォンアプリによるキャッシュレス決済をスタートします。決済アプリで支払い可能な料金は水道料金、下水道使用料、水道開線手数料です。

今までコンビニや金融機関などでお支払いいただいていたものが、お持ちのスマートフォンのアプリケーションで決済できるようになります。市民の皆さんの利便性や新型コロナウイルス感染症のリスク低減を重視して、キャッシュレス決済を始めさせていただきます。

(3) バレンタインデーにヒゲソリダイと米山プリンセスはいかが？－ヒゲソリダイ講演会・試食会を開催

(主管：農林水産課)

ヒゲソリダイはもともと天然の魚ですが、海洋生物環境研究所実証試験場の方々の努力により、全国で初めて完全養殖に成功しました。昨年初めて出荷しましたが、市場でも非常に高い評価をいただきました。本日はヒゲソリダイの刺身などの料理も用意させていただきます。

今年は海のヒゲソリダイと田んぼの柏崎市認証米コシヒカリの米山プリンセスのおいしさを市民の皆さんに味わっていただきたいと思います。新潟漁業協同組合柏崎支部の津畑支部長や担当の茂田井さん、海洋生物環境研究所実証試験場の塩野谷さんからもお話をいただきます。

今回はヒゲソリダイがメインですが、米山プリンセスも表参道のネスパス新潟にある静香庵というレストランで使っていただいております、非常に好評です。著名人の君島十和子さんに

もお召し上がりいただいて、非常においしいと SNS でも発信していただきました。また、毎週日本橋のブリッジにいがたに米山プリンセスを送って販売しており、1キロ千円を超える高い値段ですが、毎週即日完売しています。

講演会・試食会の日にはバレンタインデーですので、チラシには米山プリンセスからヒゲソリダイ君にプレゼントを渡すようなイラストを描かせていただきました。広い会場で極めて制限された人数にして、新型コロナウイルス感染症対策もしっかり行いますので、安心してお越しただければと思っています。

(4) 柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 原子力規制庁による審査結果に関する住民説明会を実施

(主管：防災・原子力課)

東京電力関係ではさまざまな課題が出ていますが、今回は原子力規制庁による安全審査の結果に関して、原子力規制庁が市民の皆さんに対する説明会を行います。従来は県や刈羽村と共催で行ってきましたが、今回は柏崎市が単独で行います。対象は柏崎市居住の方で、定員が 1,200 人の会場で 200 人を上限に行います。原子力規制庁の説明者はリモートで対応します。

先般の ID カード不正利用や安全対策工事一部未完了の件で原子力規制庁に要望書を出しましたので、12 日の説明会の機会に、市民の皆さんに直接お話をいただければありがたいと思っています。

(5) 平井地内で国内一貫ブルー水素製造・利活用実証試験を実施

(主管：電源エネルギー戦略室)

国際石油開発帝石株式会社(以下:INPEX)の方と平井の町内会長にお越しいただきました。また、INPEX の東京本社からも、ウェブを通じて説明をいただきたいと思います。

INPEX の事業所では国内初で、国際的にも水素への取り組みが注目されており、非常に大きな期待をされています。菅首相の施政方針演説でも、水素などの再生可能エネルギーを拡充して送電線を増強するとありましたので、このような実証が平井で行われるということ誇りに思っています。

まだ私共もこれからの話として伺ったばかりですし、平井町内会の方々もまだ伺ったばかりだろうと思いますので、今の段階でのお話をお願いしたいと思います。

国際石油開発帝石株式会社東日本鉱業所長 君波氏：国際石油開発帝石は柏崎市と長らくご縁があり、1972年から2014年までの42年間、平井地区で累計生産量約74億立方メートルの天然ガスを採取し、原油は累計で約170万キロリットル生産してきました。

2014年に操業停止しましたが、今般、市長が掲げる柏崎市のエネルギービジョンとご縁があり、そこに参加させていただくことになりました。我々は、2050年のカーボンニュートラルを目指してブルー水素発電事業の展開を決定しましたので、ぜひ柏崎市で実証実験を行わせていただきたいと思います。

平井町内会長 佐藤氏：昭和40年代からガスの採掘が始まり、2014年に止まりましたが、帝石さんからいろいろな面でご協力いただきました。

今回は急なお話でしたので、町内としてどうこうという話はまだできませんし、これからの話だと思います。水素という言葉は、東日本大震災の水素爆発も連想されるという電話もいただいていますし、不安もありますので、地元には丁寧な説明をお願いしたいと思います。また、その辺りは市長や市役所を通してしっかりした対応をお願いしたいと思います。

国際石油開発帝石株式会社東京赤坂本社技術本部執行役員ゼネラルマネージャー 加賀野井氏：まず、2050年ネットゼロカーボン社会に向けた経営の基本方針を説明します。

第一に、今後も増加する我が国および世界のエネルギー需要に応え、長期にわたり引き続きエネルギー開発・安定供給の責任を果たしつつ、2050年ネットゼロカーボン社会の実現に向けたエネルギー構造の変革に積極的に取り組みます。

第二として、気候変動に関するパリ協定目標の実現に貢献すべく、2050年自社排出ネットゼロカーボンを目指す気候変動対応目標を定めます。

第三として、ネットゼロカーボン社会に向けた変革の時代に、社会のニーズに応えるソリューションを提案すべく、3つの取り組みによって、5つの事業の柱を強力に推進します。

3つの取り組みの1点目は当社の強みの活用です。これまで国内外で培った事業面、技術面、操業経験などの強みを最大限活かして事業対象を選択し、当社の人材、資金、知見などの経営資源を活用していきます。2点目は産官学の連携強化です。時代の変化に対応するために新たなイノベーションやビジネスモデルの実現が必須であり、エネルギー分野はもとより、広範な分野における産官学との長期的な連携や協力を推進していきます。3点目は、政

策的なフレームワークの整備などに協力するとともに、政策支援の適切な活用により、迅速かつ効率的な取り組みを推進していきます。

これら3つの取り組みにより、上流事業のCO₂低減のためのCCUS推進、水素事業の展開、再生可能エネルギーの強化と重点化、カーボンリサイクルの推進と新分野事業の開拓、森林保全の推進という5つの事業の柱を強力に推進することで、ネットゼロカーボン社会に向けた変化に積極的に対応し、エネルギートランスフォーメーションのパイオニアとなることを目指します。

続いて水素事業の展開を説明します。中長期的な水素社会の到来を視野に入れて、エネルギーの生産、供給事業者として水素事業への展開を図ります。将来的な再生エネルギー由来の水素事業を視野に入れつつ、まずは足元として、当社の天然ガスのアセットを活用したカーボンフリーの水素の製造および供給のため、天然ガスを水素とCO₂に分離します。そのCO₂を地下に戻し、CO₂を上手く利用して、すでに減退しているガス田から取り残しのガスや油分を取り出すというように有効利用すると同時に水素を生産するということを考えています。

また、水素社会の確立に向けた課題解決のため、他の企業や団体と協力連携した研究開発を進めるとともに、水素バリューチェーン協議会のメンバーとして業界横断的に連携し、社会実装プロジェクトの実現を通じて、早期に水素社会の構築を目指します。その大きな柱が、現在プロジェクトを計画している、平井地区で当社の南長岡ガス田で生産されたガスを用いた水素を製造するプロジェクトです。当社のパイプラインを通じて平井地区まで持っていき、そこで水素を製造し、その水素を発電などに有効に活用します。一方、分離されたCO₂はさらなる資源を取り出すために有効に活用するということを想定しています。これは、将来的に世界レベルでやっていくためにここで第一歩を切らせていただければ、将来的なエネルギーの安全保障にも関連してくると考えています。現在の計画では、今年詳細な検討を行い、来年プラントの建設を始めて、早ければ2023年の末に試運転、プラントの立ち上げ、運転開始ができるように取り組んでいる状況です。

2 質疑応答

◎新型コロナウイルスワクチン接種に関する質問

記者：高齢者から始めるということだが、何歳までを高齢者と言うのか。

市長：65歳以上は高齢者で上限はありません。

記者：会場の問題をこれから詰めなければならないということだが、ワクチン接種に向けた市の課題は他にどのようなものがあるか。

市長：課題ばかりです。注射をしていただく医者、看護師、事務方などの確保、接種後しばらく待つていただく駐車場の整備など。また、既存の施設で対応しなければならないので、どのように密を避けてより早くたくさんの人数に接種を行うのかということを含め、国や県とも相談しながら課題を想像するところから始めなければならないと思っています。

◎ヒゲソリダイと米山プリンセスに関する質問

記者：米山プリンセスの市民向け講演会・試食会などの計画はあるか。また、チラシに描かれているイラストは誰の作品か。

市長：米山プリンセスだけの試食会は今まで行っていませんでした。今回偶然バレンタインデーと重なったので、ヒゲソリダイを雄と見立ててプリンセスと組み合わせていただいて、ヒゲソリダイだけでなく米山プリンセスのおいしさも市民の皆さんに味わっていただきたいと思います。

イラストは女性職員が描きました。

◎原子力規制庁による住民説明会に関する質問

記者：説明会の開催は、IDカードの不正使用が発覚する前から決まっていたのか。

市長：はい。

記者：先日市長が出された要望書に関して、この説明会で原子力規制庁から明確な説明などがなされる確約はあるのか。

市長：確約はありません。ただし、元々これは7号機の審査が終わったことに関して市民の皆さんに直接説明してもらいたいと要望していましたので、これはこれとして非常に大きな意味はあると思います。

要望書の5番目に、機会を見て直接市民の皆さんに説明していただくことを希望すると書かせていただきましたが、これはこの説明会を意識して書いたつもりです。12日の説明会で、現段階での所見で構わないので、できる限りの説明をいただければありがたいと思っています。

記者：従来、県と刈羽村と共催で行ってきたが、今回柏崎市単独となった経緯を伺いたい。

市長：県と刈羽村との共催も考えましたが、県は3つの検証が現在進行形という事情があると思います。刈羽村は承知していませんが、今回は県も刈羽村も一緒にというお声はなかったと思っていますので、結果的に柏崎市が単独で主催となりました。それにより、対象者も市内在住者に限定させていただきました。

記者：安全対策工事の一部が未完了だったことが発覚したが、説明会には影響がないのか。

市長：その件も含めて原子力規制庁から説明していただけるのではないかと期待していますが、今回の件が発覚したからといって安全審査が元に戻るということはなく、あくまでも完了したと私自身は承知しています。

◎平井地内での国内一貫ブルー水素製造・利活用実証試験に関する質問

記者：INPEXに平井で実証実験する動機と投資規模などを可能な範囲で伺いたい。

また、市長には、地域エネルギー会社の構想もあると思うが、この柏崎産の水素をどのよう

に活かしていくのか伺いたい。

INPEX 君波氏:当社は新潟県から1都8県にまたがる全長1,500キロメートルのパイプラインを持っており、主に長岡の天然ガスと直江津基地で受け入れる海外のLNGをミックスして、一番遠いところでは静岡まで送っています。

平井地区の地層で当社が取り残している天然ガスなどを、水素を作ったときに分離して出てくるCO₂を戻してさらなる回収を狙うことが目的となっています。さらに、規模はまだ検討中ですが、ブルー水素電力と言われるものを柏崎市にご利用いただきたいと思っています。

市長:来年からプロジェクトが始まり、プラントができるまで2年ほどかかるというお話だと思います。そこでできる電力量や価格も重要ですが、地域エネルギー会社設立を目指していますので、再生可能エネルギーを中心とした電力を自社電源として考えています。ブルー水素は非常に理想形に近い電力の供給源ですので、提携電源の一つとしてこれから具体的な交渉をしなければならないと思いますが、基本的にはお受けすることを前提に詰めていきたいと考えています。

記者:地域エネルギー会社の構想の中で、前日の準備会では基金を立ち上げて補助金を出すという話もあったが、今回の水素製造に当たって市としてどんな支援を考えているか。

市長:今のところ財政的な支援は頭にありません。最初の支援かつ一番大切なのは、地元の方々とINPEXの仲立ちをして、INPEXが行う事業を行政の立場からも住民の方々に分かりやすく説明することだと思っています。その後、地域エネルギー会社の設立なども併せて、INPEXと柏崎市が経済的な部分も含めてどのような関係を持つかは、これからの話になると思います。

昨年10月ごろにINPEXに伺い、社長と話をさせていただきましたが、その時はこの構想の話はありませんでした。ここにきて急展開したというのが私の印象なので、具体的なことは意見交換をしながら良い関係を作り上げていきたいと考えています。

記者:今の段階で平井地区の方や市民に向けての説明会などは予定しているか。

市長：町内会長と平井地区の2、3人の方々にはINPEXの君波氏から説明していただきました。町内会としての説明はまだありませんので、求められるということであれば、市が仲立ちをして、INPEX からより多くの方々に事業説明をしていただければありがたいと思います。

INPEX 君波氏：INPEX として、町内会長、土木担当の方、農地担当の方の3名に説明させていただきました。まだ詳細設計段階で、規模感がイメージできないと思いますので、もう少し煮詰まってから町内会の皆さんや柏崎市に説明させていただきたいと思っています。

記者：柏崎市は風力や今回の水素事業など、再生可能エネルギーに力を入れていると思うが、あらためて柏崎市での再生可能エネルギーへの期待と可能性をどのように考えるか伺いたい。

市長：柏崎市には世界最大の出力規模を持つ原子力発電所があります。当面の間、原子力発電所は必要ですが、同時に、これからの時代は再生可能エネルギーを環境エネルギーとして、柏崎の新しい産業として組み立てていきたいと申し上げています。そういった意味で、3年前に地域エネルギービジョンを掲げました。そうしたところ、INPEX や今ここでは申し上げられませんが、他社からも地域エネルギービジョンに協力したいという声があります。

また、西山地区を中心に、風力発電の計画が進められています。それぞれ簡単にうまく進むとは考えていませんが、地域エネルギービジョンに注目していただいている事業者が非常に多くなっている実感があります。さらに、菅総理がカーボンニュートラル2050を掲げられたことも大きな追い風だと考えています。国の大きな動きや流れを大切にしながら、私共が組み立ててきた原子力発電所との当面の間の共存と、再生可能エネルギーを環境エネルギーとして組み立てていくということをさらに強力に進めていきたいと考えています。

**記者：INPEX に平井地区を選んだ理由と、どれぐらいの規模を予測しているか伺いたい。
また、町内会長には、住民の反応などを伺いたい。**

INPEX 君波氏：平井地区の道路を挟んで300メートルぐらい山側に入ったところに、当社の東京ラインと呼ばれるパイプラインが走っています。平井が操業停止してからもパイプラインは残置してありますので、その幹線パイプラインから反対にメタンガスを引き込んで水素

を作るということで、平井地区を選定しました。重なりますが、平井地区は枯渇したガス田で、その CCUS である EOR と呼ばれる原油ガス二次、三次回収法が実証でき、水素を作るだけでなく、CO2 によってさらなるエネルギー回収をしようということで平井地区を選ばせていただきました。

菅首相の 2050 年カーボンニュートラルの話があつてからブルー水素発電事業を検討し、柏崎市にもお願いして、当社の事業説明をしたところです。1 月からメーカーと詳細検討していますので、規模はまだお答えできる状況ではありません。

平井町内会長 佐藤氏：まだ施設の詳細や概要がわかりませんので、具体的なことが決まったら町内にも説明をお願いしたいと思っています。今は情報があまりないので、賛成や反対だということは考えていませんし、正直わからないというのが実情です。先ほども申し上げたように、水素という言葉に不安を感じている方も実際にいるので、不安を解消していただくような丁寧な説明をお願いしたいという程度です。具体的なことはこれからだと思います。

記者：ブルー水素製造・利活用実証試験に対する自信を伺いたい。

INPEX 君波氏：現在実際に神戸で、あるメーカーが水素でエンジンを起動させて、その動力で発電しています。その水素を作る過程が一番シビアで、また、その水素の立方メートル当たりの単価が問題だと思っています。これから詳細検討に入りますが、平井で実証してサイクルとして成り立った時に、さらなるスケールアップを将来的なプロジェクトとして考えています。早ければ 2023 年の末に稼働を目指していますが、2023 年から 10 年、20 年規模で取り組んでいこうと思っていますので、自信はあります。

◎先般の大雪などによる被害に関する質問

記者：先般の大雪などによる柏崎市の被害状況を伺いたい。

市長：国に対して豪雪に対する緊急要望書を提出させていただきました。具体的な数字は書き込んでいませんが、総務省に対して豪雪に伴う特別交付税の増額配分について、国土交通省関係では市道除雪費補助の臨時特例措置について、内閣府に対して原子力災害時における

避難経路の確保について要望書を提出しました。具体的な被害に関しては、後ほど資料をお渡しします。

記者：現在の除雪費と、これからの見通しを伺いたい。

市長：市道関係では6億に至っています。詳しくは後ほど資料をお渡しします。

◎東京電力の原発再稼働に関する質問

記者：今後の再稼働に向けた動きは、2021年の上半期に大きな動きが出てくるのではないかという話だったが、今回の件でその辺りのスケジュール感はどのように考えるか。

市長：期待感を含めて上半期と申し上げましたが、今回の件で少なくとも数カ月単位で遅れる可能性も大きくなったのではないかと思います。

記者：この件で、自民党新潟県連の小野幹事長が今年中の再稼働はあり得ないというようなことを東京電力との面会で話されたが、市長としても今年中または今年度中の再稼働はあり得ないという認識か。

市長：以前小野先生と話をさせていただいた時には、そのような話はされていませんでしたし、報道を通しての発言でしか承知していません。IDカード不正使用と安全工事一部未完了の件で反応された発言だろうと思いますが、発言の本当の意味なども含めて、直接伺っている部分とニュアンスが違うので、その部分に関してはお答えできません。

今年の前半というスケジュール感は、数カ月単位で遅れる可能性が出てきたと申し上げましたが、原子力規制委員会の検査は終わっていますので、年内、できれば年度の前半プラス数カ月の中で結論付けられることを期待すると申し上げるだけです。

記者：つい先ほど、柏崎商工会議所が東京電力に、IDカード不正使用や安全対策工事一部未完了に関して、大きく失望したという強い言葉を使いながら再発防止の確立や地域への説明を申し入れたが、商工会議所からこのような声が出ることをどのように感じるか。

市長：申し入れするという話は伺っていましたが、内容はまだ拝見していません。今まで50年間原子力発電所を推進してきた団体である商工会議所が、失望したという言葉が使われたのであれば、そのような厳しい意見が出されること自体の重みを東京電力には十分感じ取っていただかなければならないと思います。

◎原子力災害時の冬季避難訓練に関する質問

記者：市長は先日、原子力災害を想定した冬季避難訓練を見学され、具体的に実効性のあるものを今後重ねていく必要があると話されたが、具体的にどのようなところが今後訓練で必要だと考えるか。

市長：鵜川地区市野新田という、原子力発電所からおおむね5キロメートル～30キロメートル圏内にある小さな集落を会場に避難訓練を行いました。今度は、山間部でもさらに大きな集落や原子力発電所からおおむね5キロメートル圏内の会場でも訓練が必要だと思います。海に近い地域でも雪で困ったという意見もいただいていますので、国、県とも相談しながら、規模感も含め、冬季間のみならずあらゆる場面を想定した避難訓練を積み重ねていかなければならないと考えています。

記者：原子力発電所からおおむね5キロメートル圏内の住民の方々が今回の大雪を受けて要望書を提出された。原発再稼働の賛否は置いておいて、住民が大雪で車庫から車が出せないというところもあったが、除雪に関してどのように感じるか。

市長：今回要望書を出された方々の中には、国道に面したところに住んでいる方もいらっしゃいます。除雪車が除雪をして、車庫の前に大きな雪の塊を置いていってしまい車が出られなくなったという事例も伺っています。

要望書を出された地区の方々のところへ行き、話を伺ってきました。確かに例年に比べて多く雪が降り、除雪車の雪で車庫から車が出しにくくなりましたが、スコップでどければ出られる状況になったという方も多くいらっしゃいます。

もちろんいつもの冬、冬以外の状況から見れば避難しにくい状況だったと理解しますが、

全く避難できないという状況でもなかったのではないかと思います。もしできないという状況だったならば、自衛隊のヘリや船舶の利用などを国、県とも相談しながら、避難計画の実効性をより一層高めていく努力は続けていきたいと考えています。